

■鈴木喜三郎 司法官・政治家。議会政治を否定し、思想弾圧によって、戦時体制・ファシズムを先導する一人となった。

すずききさぶろう

大政奉還・1867＝武蔵国橘樹郡大師河原村で農業のかたわら製塩業を営む川島市太郎の次男に生まれる。

明治維新・1868＝1歳：

明治6年政変 1873＝6歳：

三つの反乱・1876＝9歳：

明治14年政変 1881＝14歳：

新体詩抄・1882＝15歳：大師河原の天台宗明長寺住職鈴木慈孝の養子となり家督を相続。上京して東京外国語学校仏語学科，

内閣発足・1885＝18歳：

第一高等中学校を経て，

初の対等条約 1888＝21歳：_帝国大学法科大学に入学，

帝国憲法発布 1889＝22歳：

足尾鉋毒始・1891＝24歳：_仏法科を首席で卒業した。ただちに司法界に入り司法官試補，ついで判事に任ぜられた。

麹町区裁判所・東京地方裁判所・東京控訴院の各判事などを歴任。

日清戦争始・1894＝27歳：

この間，鳩山和夫の長女（一郎の姉）カヅと結婚。

日比谷公園・1903＝36歳：

日露戦争終・1905＝38歳：

韓国反日暴動 1907＝40歳：

司法制度・裁判事務取扱の方法などの調査のため，ヨーロッパ各国を視察し，

アラビヤ創刊・1908＝41歳：帰国後，

東京地裁所長・司法省刑事局長・同法務局長を経て，

明治天皇没・1912＝45歳：

第一次大戦始 1914＝47歳：*司法次官に就任。

_以後7年6ヵ月にわたってその地位にあり，平沼騏一郎の系統に属し，司法界に大きな勢力を保持（平沼・鈴木閥）。その間，選挙肅正・大浦兼武内相の議員買収事件の摘発・監獄制度の改善・少年法の制定・判検事停年制の実施・司法官増俸などに力を注ぎ，財団法人保輔会の会長として出獄者保護事業にも努力した。

大暴落・1920＝53歳：

貴族院議員に勅撰される。

原敬首相暗殺 1921＝54歳：

関東大震災・1923＝56歳：

検事総長となって，第一次世界大戦後の社会運動の高まりと“思想の悪化”に厳しい態度を取った後，

護憲三派圧勝 1924＝57歳：_清浦内閣の司法大臣として入閣したが，総選挙で護憲三派に敗れて内閣総辞職となり，辞任した。

この間，平沼の主宰する日本主義思想団体国本社の発足に際して，理事として名を連ねた。

治安維持法・1925＝58歳：

立憲政友会に入党し，

金融恐慌・1927＝60歳：

立憲政友会の田中義一内閣の成立とともに内務大臣として入閣。

共産党事件・1928＝61歳：

*初の普通選挙による衆議院議員総選挙にあたって，立憲民政党の説く“議会中心政治”を“日本の国体と相容れない”として排撃する声明を発表して政界に大きな衝撃を与え，その時の選挙干渉と相まって，野党側から，立憲政治を破壊する言動であると非難を浴びた。また総選挙後，司法当局と協力して共産主義活動家のいっせい検挙を行う<三・一五事件>など社会運動を厳しく取り締まったため，鈴木内相弾劾の野党攻勢が高まり辞任したが，審議未了となった治安維持法の改正（最高刑の死刑への引上げなど）を緊急勅令によって実現をはかる推進役を演じ，政友会内の復古主義的傾向を代表する勢力として鈴木派は大きな勢力を占め，

世界恐慌・1929＝62歳：

田中義一総裁死後，床次竹二郎と総裁の地位を争うも，党の分裂回避のため，長老犬養毅が総裁となる。

海軍軍縮条約 1930＝63歳：

犬養内閣の成立とともに司法相に返り咲き，

満州事変・1931＝64歳：

*内相に転じた後，12年近く勤めた貴族院議員（勅選議員）を辞し，神奈川県第一区から衆議院議員に当選。<五・一五事件>で犬養が暗殺されると，立憲政友会総裁となったが，陸軍の政党内閣反対論のため首相への

途を阻まれた。その後，農村救済問題，リットン報告書反対などに活躍し，

芥川直木賞始 1935＝68歳：

*天皇機関説問題がおこると，衆議院各派の提出になる国体明徴決議の提案理由の説明にあたり，岡田内閣に天皇機関説排撃を迫った。このころから健康を損ね，

二二六事件・1936＝69歳：

総選挙に落選し，再び貴族院勅選議員となった。

日中戦争始・1937＝70歳：

立憲政友会総裁の辞意を表明し，四名の代行委員を指名して党務を委ね，

第二次大戦始 1939＝72歳：

任期満了により総裁辞任。

大政翼賛会・1940＝73歳：

_没した。